



ホ 2  
4304  
3



阿 木 2  
號 439  
巻 3

故  
先光清風氏  
大正三年丙  
平日  
先光華氏  
寄贈  
見

○志

○日七十五 日確畧にこのことへつてまるとくへを  
 してぬれ思をたるとしたまへん○日三 梓らまが  
 へ 然し○方さけちりるものなりをさるる  
 ○日六 一りりあまもひけをきこと  
 ○方大 ちよーあらちらいつくしくにまらるる  
 ありにあり一○日五 かがのいにはききたくもあ  
 一七 〇日十一 一かごう  
 かのあろうや 然しこのことへつてまるとくへを  
 のことかひきまきまはらけけけけけけけけのそらるる  
 にあまらるるやも○日三 山一ろといひけりやまいけあ  
 かも。れたけりるものなりをさるる  
 るるきことへつてまるとくへを  
 然しこのことへつてまるとくへを  
 酒後領云々奮丹勝踪



ちのこし  
**ちのこし** 下巻。古下。つりのきく用は守都。○方丸るりの派のきく入ね

ちのこし きてうちあけむ。○月夕々せむしあまそくねあるむ書大へ。あは

ちのこし ちのこし。○方四あんく川ちるるれをそくねてせあくとやち

ちのこし かねてちや。○六カ格川川意はにうりて上もこてりける

ちのこし このをこさね **ちのこし** 美か。○方井わうらてしり

ちのこし てくや。き **ちのこし** 山。○方三つめめめめめめめめ

ちのこし てくや。き **ちのこし** 山。○方三つめめめめめめめめ

ちのこし てくや。き **ちのこし** 山。○方三つめめめめめめめめ

ちのこし てくや。き **ちのこし** 山。○方三つめめめめめめめめ

ちのこし てくや。き **ちのこし** 山。○方三つめめめめめめめめ

ちのこし てくや。き **ちのこし** 山。○方三つめめめめめめめめ

ちのこし てくや。き **ちのこし** 山。○方三つめめめめめめめめ

ちのこし てくや。き **ちのこし** 山。○方三つめめめめめめめめ

ちのこし てくや。き **ちのこし** 山。○方三つめめめめめめめめ

其、杖垂款莫しは然。拙しはいさぢしよもす。こむり花ちちのなあくときくやう。○文選上林苑  
扶疎。○月天の冠。権しは潔長袖しは魂しは纏。○月杖しは冠。影の杖しは冠。○杖しは冠。○杖しは冠。○杖しは冠。

**ちのこし** ○方三つめめめめめめめめ

**ちのこし** ○方三つめめめめめめめめ

**ちのこし** ○方三つめめめめめめめめ

**ちのこし** ○方三つめめめめめめめめ

**ちのこし** ○方三つめめめめめめめめ

**ちのこし** ○方三つめめめめめめめめ

**ちのこし** ○方三つめめめめめめめめ

**ちのこし** ○方三つめめめめめめめめ

**ちのこし** ○方三つめめめめめめめめ

**ちのこし** ○方三つめめめめめめめめ

**ちのこし** ○方三つめめめめめめめめ

**ちのこし** ○方三つめめめめめめめめ

**ちのこし** ○方三つめめめめめめめめ

**ちのこし** ○方三つめめめめめめめめ

**ちのこし** ○方三つめめめめめめめめ

**ちのこし** ○方三つめめめめめめめめ

**ちのこし** ○方三つめめめめめめめめ

ちのかと乃大ーましアーくも。日由 ちんらんハ。日十九

るーましとめよ。日九つえ。日十九 ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九 ちんらんハ。日十九

かばりのまをくちまをぬく

ま ちひよとあれやハ 強而有美。日九まらつてのちひよとあれ

ま ちひよとあれやハ 強而有美。日九まらつてのちひよとあれ

ま ちひよとあれやハ 強而有美。日九まらつてのちひよとあれ

ま ちひよとあれやハ 強而有美。日九まらつてのちひよとあれ

ま ちひよとあれやハ 強而有美。日九まらつてのちひよとあれ

ま ちひよとあれやハ 強而有美。日九まらつてのちひよとあれ

ま ちひよとあれやハ 強而有美。日九まらつてのちひよとあれ

ま ちひよとあれやハ 強而有美。日九まらつてのちひよとあれ

ま ちひよとあれやハ 強而有美。日九まらつてのちひよとあれ

ま ちひよとあれやハ 強而有美。日九まらつてのちひよとあれ

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九

ちんらんハ。日十九



けりか **ちわらき**  
和嶽 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし  
たらく かへちわらぬ。和嶽之和皮細起。日林代 磯嶺上まきふぶき

ま **ちろ**  
白膜 ○日林代 ねとてのへはくちり。日九つりし  
古上 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし

て **ちらけ**  
精兵 ○日林代 ねとてのへはくちり。日九つりし  
古出 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし

よ **ちら**  
白 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし  
古上 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし

と **ち**  
和震 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし  
和震 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし

く **ち**  
和震 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし  
和震 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし

ち **ち**  
和震 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし  
和震 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし

て **ち**  
和震 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし  
和震 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし

へゆく時のぬりひは **ち**  
山 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし

ふく **ち**  
山 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし

も **ち**  
山 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし

ち **ち**  
山 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし

ち **ち**  
山 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし

ち **ち**  
山 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし

ち **ち**  
山 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし

ち **ち**  
山 ○カハ ねとてのへはくちり。日九つりし





市橋種よし。日神代。このこまきさ

たるうへよ又まきちりいそりあけい

あふ細戈子豆ふ

ちわいしほつまふ

ふのこくやしくく。ちをこひわりちむ。和木の檜

之岐美 香木也。日草於其命草之木義 可以毒魚者也

木。方十廿五のハチリヤチキのそくちの味うらうら。兼よりかむ。日土ありひきの山を

乃尾のまきりをの。日草位 壺。催 ちんきや。まさりのまきりやぬきこい。ちりひ

たし

ちんきさ。方土 檜林のまきの下を

乃花きさるわ

よつてまきさるわ

まのくらら。川のかのちつま

。下草まてひくまきちめへ

乃まぬな

かりさ

ちわいしほつまふ

醜形。方十三をやの醜形に。

ちこのまきさるわ。ちて

ちんきさ。方土 檜林のまきの下を

乃花きさるわ

よつてまきさるわ

まのくらら。川のかのちつま

。下草まてひくまきちめへ

乃まぬな

かりさ

。日神代 昔伊弉諾

。目此。日本志 傳

。方十 たい山うま

。垂柳也。和 小

。揚之太里 夜を

ちんきさ。方土 檜林のまきの下を

乃花きさるわ

よつてまきさるわ

まのくらら。川のかのちつま

。下草まてひくまきちめへ

乃まぬな

かりさ

ア。このまきさるわ。ちて

あけくさ。このまきさるわ。ちて

とさ。このまきさるわ。ちて

とら。このまきさるわ。ちて

せ。このまきさるわ。ちて

あ。このまきさるわ。ちて

ち。このまきさるわ。ちて

。日神代 昔伊弉諾

。目此。日本志 傳

。方十 たい山うま

。垂柳也。和 小

。揚之太里 夜を

。方十 たい山うま

。垂柳也。和 小

。揚之太里 夜を

。方十 たい山うま

。垂柳也。和 小

。揚之太里 夜を

。方十 たい山うま

。垂柳也。和 小

。揚之太里 夜を

。方十 たい山うま

。日神代 昔伊弉諾

。目此。日本志 傳

。方十 たい山うま

。垂柳也。和 小

。揚之太里 夜を

。方十 たい山うま

。垂柳也。和 小

。揚之太里 夜を

。方十 たい山うま

。垂柳也。和 小

。揚之太里 夜を

。方十 たい山うま

。垂柳也。和 小

。揚之太里 夜を

。方十 たい山うま

。垂柳也。和 小

。揚之太里 夜を

。方十 たい山うま

。垂柳也。和 小

。揚之太里 夜を

。方十 たい山うま

。垂柳也。和 小

いとけとほくして三任二位乃之のきぬうらむをりもりのうきをこよ人のんさんすきこ  
りきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

くらげぶね

白赤の。方三。くさけの。さゆの。たりり。或は地をこ。...

くらげぶね

又或は。くらげぶね。さく。ゆき。きり。きり。きり。きり。きり。きり。...

見あひの。さり。きり。きり。きり。きり。きり。きり。きり。...

方九。梅の花。雪。よ。さ。されて。ふ。から。は。林。の。も。ゆ。め。の。さ。さ。り。れ。...

から。ぬ。ん。も。も。ふ。さ。の。き。り。きり。きり。きり。きり。きり。...

杜。鹿。の。方。十。さ。を。一。の。月。三。か。つ。杜。鹿。の。や。ろ。ん。...

うの。う。ま。た。に。し。き。り。ち。辰。方。九。ま。ま。け。て。の。わ。り。き。ま。ま。よ。う。け。て  
た。ま。さ。の。し。き。り。辰。田。の。う。げ。字。使。特。志。文。和。松。之。木。一。云。田。を。野。を。...

猪。鹿。踏。起。之。方。六。鈴。り。は。ま。て。う。け。て。...

ま。ま。ひ。き。の。枝。の。へ。...

和。規。亦。作。顯。之。美。似。蛤。而。少。思。者。...

方。六。位。の。名。入。て。た。ま。の。ま。て。し。あ。け。た。れ。...

細。螺。之。大。美。似。甲。蟹。而。細。小。有。白。点。之。其。美。者。...

あ。つ。り。ま。や。し。ま。り。れ。く。ら。の。人。の。は。さ。ち。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。...

之。此。亦。雅。注。云。大。者。乃。名。細。小。乃。名。細。...

之。和。能。之。女。山。を。崔。之。...

切。け。付。か。よ。り。う。う。か。け。...

はくしとつたさへ大自物袴一物申自物袴自物袴のいりさすりしとて  
○日五 三つ一のつくへりりい。○日二 三つ一のいひや。大いぬきりや  
たり 白鹿の和廣雅三歳名之黄鹿 俗三和賀太か 二歳名之撫鷹 俗三加太加利 三歳名之  
音鷹 音鷹 音鷹 今京音白鹿名之俗況座白者多神 雌鹿皆名之良天賀鷹  
大者五神名白鹿名於保太賀少者皆名落字 淨供所用之鹿 三子 為乃所 出者淨俗説  
権者 謂之之鹿 雌鹿 謂之大鹿也。○日九 中々なるのまきろのたをやまをきき  
てはかて

まきろも 〇日五 中へのつろもころもろしなり  
くろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり

まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり

まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり

まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり

まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり

まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり

まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり  
まきろも 〇日九 中へのつろもころもろしなり

てたりらむ。日三 浴衣のあまのまほやき夜の

ふち及まをす。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

わたりけむ。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

まほやきをす。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

のねび。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

人ハリ。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

つら。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

たへ。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

へのお。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

喪服。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

ほろ。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

乃画。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

まき。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

まき。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

まき。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

まき。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

まき。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

まき。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

まき。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

まき。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

まき。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

まき。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

まき。日一 浴衣のあまのまほやき夜の

植ちて。日土登のち想いつやうに。説文械詩情三械所八通波空大。お名ハ比と  
よ極のくきこ也。日本書 塘械。此氏縁阿利直公造作す。植以垂あ四山、  
土づつら 下移る。方五あこま。ちつらちちねきまひりて。和糖之太久良。な  
後糖説之太久良。於也。言方約也。いあへんり作とけらふとてくら

つらねて。あ説のこの下くらくわりのゆりハ都の  
月をこひさらちやハ。和糖をまつえとりつらこ  
其傳後方自言徒所以尚不傳是入。日神代中臣神志神別東心端出之繩乃信曰  
加僧還幸。和任連之利久任云成。方十とありらうりくよや。ろのこちちもあ  
あんこえマち

とらねりのむ 白塗之鈴之。式半乃神奈新はえく中乃  
塗鈴ハ。五七。ちらねりのむとりつらこ  
あらへは 白珠之。日神代あまひーらこま。日え是 希る所也有ま珠。五七。物のと  
よつらねをりこきまねらたあつらつきこ。ねきつらつむ。和自

虎追え海 出明珠 ちらねりのむ  
ちらねりのむ 白檀之。方九キ。ゆりし教りねひてらふ  
りりし。ませつらむと。まづのまづまの除り也  
まきもの 新居より。日教明 十五年。方十二月。石はつてを明。然好。錦三足。鼎。鏡。二級  
方三。る。は。天。然。こ。れ。は。よ。れ。ハ。ち。き。り。り。も。ま。ち。ん。方。ま

ちらねりのむ 銀之。方五。ちらねりのむ。こわのむ。たきも。たきも  
せし。ま。た。れ。つ。ら。ら。子。子。イ。ん。ち。も

ちらねりのむ 然。隨。之。水。ハ  
さ。ち。り。あ。る

ちらねりのむ 無。は。た。れ。又。う。ま。う。あ。く。の。こ。ゆ。ら。は  
子。子。裂。破。子。の。あ。ん。ま。く

ちらねりのむ ち。き。ぬ。過。三。十  
こ。か。子。の

ちらねりのむ ち。ま。け  
古。中。さ。ち。ち。ち。ち。を  
ま。ち。ち。ち。ち。ち。ま

須

ちらねりのむ ち。ま。け  
古。中。さ。ち。ち。ち。ち。を  
ま。ち。ち。ち。ち。ち。ま

ちらねりのむ ち。ま。け  
古。中。さ。ち。ち。ち。ち。を  
ま。ち。ち。ち。ち。ち。ま

ちらねりのむ ち。ま。け  
古。中。さ。ち。ち。ち。ち。を  
ま。ち。ち。ち。ち。ち。ま

ちらねりのむ ち。ま。け  
古。中。さ。ち。ち。ち。ち。を  
ま。ち。ち。ち。ち。ち。ま

ちらねりのむ ち。ま。け  
古。中。さ。ち。ち。ち。ち。を  
ま。ち。ち。ち。ち。ち。ま

ちらねりのむ ち。ま。け  
古。中。さ。ち。ち。ち。ち。を  
ま。ち。ち。ち。ち。ち。ま

せいの直とを俗とく

くらしのくけまをこれ

乃ちちよ老

かちちよ老

くしははのまをけ

てかせういまけ

あさひ

ついでるふ

たやまむ

進の万四

き乃ちちよ

濯之方十六

月十三

たのちち

免ち

いんくちのく

若ゆ之方七

いのわれを

くしははのまをけ

てかせういまけ

あさひ

ついでるふ

たやまむ

進の万四

き乃ちちよ

濯之方十六

月十三

たのちち

免ち

小の方十五

ついでるふ

いのわれを

くしははのまをけ

てかせういまけ

あさひ

ついでるふ

たやまむ

進の万四

き乃ちちよ

濯之方十六

月十三

たのちち

免ち

たのちち

免ち

則この方八はのきんちきしとちかえちきしうへはゆけとわらひのりけむ

かちの六やえきんちきしとちかえちきしうへはゆけとわらひのりけむ

無方便の方四とけあわわひてを里ちうく有とたていぬとん

ちのさ。不解不中。不知不。厩無ある皆まねあり

都而の方三ちち乃神をもわれはのて

てきこひとちのまへてやまけ

むねのひて

はゆひは

天平の二年玉守交番以四年の浪向空志土年

伊ねりうひなきせけり一月をあてちちきりてふやまひ

をちち

あは

い

あむやけ

あむ

あむ

進の万四大舟のこ

き乃ちちよ

濯之方十六

月十三

たのちち

免ち

たのちち

免ち

たのちち

免ち

たのちち

免ち

たのちち

免ち

たのちち

免ち

たのちち

免ち

たのちち

免ち

たのちち

免ち

たのちち

免ち

たのちち

免ち





蛭左利似蜂而細弱、兼名虎一名螺羸。日惟夏令螺羸人名之、此乃後系屬。  
 五九脚細のまゝなやめ。月十六はるのこころほろよ。方十まかまれまるる。其  
 地のほくきん。ほくきんも多量の果をかりし。つゆるかくりり。蛭殻はし  
 く柵の果をかりし。つゆるかくりり。古今をわく。竹のまきをら  
 釘立て旅人をもとめまさん。けうこ万まのまきれもかるわれれ。たらしらしら。  
 をころるろるろるろるろ。小雅。蝮蛉有螺羸。負之。教誨。亦子。式穀似之。し

**まぐと** 。方二。キ。ゆら。ひ。の。ほ。ろ。け。の。ま。ま。の。い。の。ま。ま。  
未。留。ま。ら。る。の。浮。き。よ。を。食。も。り。と。成。人。い。り。

こ。方三。あ。い。と。金。の。ふ。ち。ほ。の。い。も。ま。ま。き。つ。の。ま。ま。か。り。た。ひ。り。わ。れ。を。  
古。上。お。釣。師。人。之。口。大。之。尾。耳。無。録。訓。傳。云。後。此。伏。在。い。の。和。語。自。似。經。而。經。大。字。也。

巢。ま。ま。い。方二。と。く。た。て。か。ひ。 **まぐと** 。わ。の。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。  
か。り。の。と。ま。ま。ら。ち。り。ん。

ぬ。く。く。の。毛。を。を。あ。れ。て。こ。ひ。ま。ぬ。い。 **まみり** 。万九。わ。や。の。  
毛。乃。斧。時。鳴。有。浮。海。ま。ま。り。り。み。ま。ま。ま。

も。酤。し。方六。ひ。け。ろ。る。ひ。の。つ。き。ひ。て。い。 **まみり** 。花。柳。は。浮。流。也。  
。和。酢。亦。作。醋。後。温。毒。也。

**ま** 。和。酢。亦。作。醋。後。温。毒。也。

**ま** 。和。酢。亦。作。醋。後。温。毒。也。

まうよりつきをくくらまき  
 てうまぬやねをぬーまき  
 けーきんハあ  
**まうのあまづ** 。日。上。方一。う。衣。を。う。の。あ。  
。日。上。方一。う。衣。を。う。の。あ。

け。り。い。の。方六。志。を。ま。う。り。日。土。紅。の。ま。う。り。の。  
。日。上。と。ひ。ま。き。り。〜。後。後。化。襦。袢。と。り。

ぬ。ま。り。信。の。い。ま。へ。え。〜。う。た。ま。き。ぬ。ま。ひ。せ。む。針。笥。も。格。の。月。具。を。ぬ。〜。この。麓。も。も。格。  
へ。〜。の。乾。糶。を。い。る。の。具。の。夫。本。け。〜。ひ。ハ。ま。り。と。と。こ。こ。と。な。り。り。け。を。や。か。へ。ま。り。し。

山。の。と。み。め。ら。和。麓。後。利。竹。筵。之。境。は。太。也。  
山。の。と。み。め。ら。和。麓。後。利。竹。筵。之。境。は。太。也。

少。燈。袋。ま。り。つ。〜。〜。私。乃。家。集。我。等。から。の。〜。ひ。ゆ。く。の。ゆ。〜。ち。  
少。燈。袋。ま。り。つ。〜。〜。私。乃。家。集。我。等。から。の。〜。ひ。ゆ。く。の。ゆ。〜。ち。

何。〜。に。沈。を。〜。〜。の。ま。〜。〜。〜。の。ま。〜。〜。〜。の。ま。〜。〜。〜。の。ま。  
何。〜。に。沈。を。〜。〜。の。ま。〜。〜。〜。の。ま。〜。〜。〜。の。ま。〜。〜。〜。の。ま。

ま。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
ま。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。

〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。

〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。

〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。

〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。

〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。

〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。

〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。

〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。





さひせはしと。日九と。あつりた

せんけつと。一あつりつらちき

れお杜よ

風をせよ

せよ

せむ

せむ

乃きまうんとせえ

をせきしあへる

寒う。方四

。月ろとぬるとも雨よ

あけて

あけて

せむ

せむ

せむ

せむ

せむ

せむ

せむ

せむ

せむ

せむ。日九と。あつりた

にほりりのかつきせむ。日九と。あつりた

日九と。あつりた。にほりりのかつきせむ。

日九と。あつりた。にほりりのかつきせむ。

日九と。あつりた。にほりりのかつきせむ。

日九と。あつりた。にほりりのかつきせむ。

日九と。あつりた。にほりりのかつきせむ。

日九と。あつりた。にほりりのかつきせむ。

日九と。あつりた。にほりりのかつきせむ。

せり。日九と。あつりた。にほりりのかつきせむ。

せむ。日九と。あつりた。にほりりのかつきせむ。

せむ。日九と。あつりた。にほりりのかつきせむ。

せむ。日九と。あつりた。にほりりのかつきせむ。

せむ。日九と。あつりた。にほりりのかつきせむ。

せむ。日九と。あつりた。にほりりのかつきせむ。

せむ。日九と。あつりた。にほりりのかつきせむ。

せむ。日九と。あつりた。にほりりのかつきせむ。

せむ。日九と。あつりた。にほりりのかつきせむ。

せむ。日九と。あつりた。にほりりのかつきせむ。



けふはかきりやうこはとよき日ニタヌ  
若き後よりこころをまきまねはくまへし  
日よるこころいふ  
〇方サうまきこもた

まろま  
まろへて  
副節こころては日一  
〇方ハふるきくらひ  
梅の花さくらぬか  
まろへて  
ろりよりへてまきこ  
は折れり  
入るまきすら  
やれとれと  
〇方サ  
うまきこもた

かきぬハ人の  
ろたへ  
何まぬ  
〇方ハ  
梅の花  
はくち  
やまき  
にをり  
こころへけり  
ちへ  
たより  
まハ  
あま  
むか  
せ

ろち  
何まぬ  
〇方ハ  
梅の花  
はくち  
やまき  
にをり  
こころへけり  
ちへ  
たより  
まハ  
あま  
むか  
せ

ろち  
何まぬ  
〇方ハ  
梅の花  
はくち  
やまき  
にをり  
こころへけり  
ちへ  
たより  
まハ  
あま  
むか  
せ

ろち  
何まぬ  
〇方ハ  
梅の花  
はくち  
やまき  
にをり  
こころへけり  
ちへ  
たより  
まハ  
あま  
むか  
せ

ろち  
何まぬ  
〇方ハ  
梅の花  
はくち  
やまき  
にをり  
こころへけり  
ちへ  
たより  
まハ  
あま  
むか  
せ

ろち  
何まぬ  
〇方ハ  
梅の花  
はくち  
やまき  
にをり  
こころへけり  
ちへ  
たより  
まハ  
あま  
むか  
せ

ろち  
何まぬ  
〇方ハ  
梅の花  
はくち  
やまき  
にをり  
こころへけり  
ちへ  
たより  
まハ  
あま  
むか  
せ

ろち  
何まぬ  
〇方ハ  
梅の花  
はくち  
やまき  
にをり  
こころへけり  
ちへ  
たより  
まハ  
あま  
むか  
せ

ろち  
何まぬ  
〇方ハ  
梅の花  
はくち  
やまき  
にをり  
こころへけり  
ちへ  
たより  
まハ  
あま  
むか  
せ

ろち  
何まぬ  
〇方ハ  
梅の花  
はくち  
やまき  
にをり  
こころへけり  
ちへ  
たより  
まハ  
あま  
むか  
せ

妹を頼りて一きこへのまこもろよまをけきつるかもさやうや  
虚言  
〇方ハ  
あま

男方女方の返ひまてけりかへし  
長恨が  
琴  
破霓裳  
羽衣曲  
〇方ハ  
あま

ちののをやもまゆらうりこをさかりとて  
君をたまむ  
〇方ハ  
あま

めの花をねと見れ  
ろれを  
〇方ハ  
あま

ゆさのぬれは  
ろれを  
〇方ハ  
あま

ろれ  
〇方ハ  
あま

は  
〇方ハ  
あま

ふや  
〇方ハ  
あま

こと  
〇方ハ  
あま

ろや  
〇方ハ  
あま

ろつひこまゆみ  
〇方ハ  
あま

ろつひこまゆみ  
〇方ハ  
あま

ろつひこまゆみ  
〇方ハ  
あま

ろつひこまゆみ  
〇方ハ  
あま

本表は元者任徳天皇宸懸之祖父也神加十二年神皇嘗其人也  
年庚申八月十五日和祭又言曰天皇よまきあ田表はまき  
もい。本表集をそのいうのさくふくれしころつひこまゆみ  
〇方ハ  
あま











矢ふささし たちのさわかき 主之驛 ちかうで  
さつとひ 向ふつりのさのいろきよ

き易し。方六五かきりつるまおしつり  
俗のまをさへし、まはるるを  
おのりむのまをさへし、まはるるを  
たぢあふや

かやむけのまをさへしとま  
あざりあれむひのまを  
たちやちうる 方廿あつるのこころをまきりかひ  
さひあれむえやけりしをたし

やん たちまごい 日きり 伴待選日。方五われ  
ちらふてむをやかありませ  
たちぢら ま平し。日廿五神官

はら 其山曰那那山猶此云布那那波  
。方五こまぬおの八十のちちとまをちちひし  
たちてきにこ 主而見み。方とち

ちぢぢで 方五をそくで たちど ま所く。方五 たちぢて  
まそりさせん こころなむり

たぢゆくひの たちぢげき 方五 君のけりあ人のやまきりうハ  
あつちぢぢけりきま

たつ 裁い。方五からけのねや  
たつこちだて 日 後主人の  
こころたてま

つつたおまはつひふかへて、おもひま八人のたや  
りつるこころ。日よのひのたつこころにて

とるまへん。方五まほほのまほあふん  
あーんつうつうつうーんあーにて

あーひまきの山。方五へんまふ音乃こつててこや あー  
ちぢや。かぢのこころのまをさへし、まはるるを たつ

りか たびさるで 推のま。方五ーまきんの神つぎちりのつぎちり  
こじし。たびさるで 推のま。方五ーまきんの神つぎちりのつぎちり

たづき 便し。俗まのつけこころをまきりあふんはー。方五とひーあれむらひ  
ちらふてむをやかありませ

。方五中興ハくして。日廿六  
たつこはふ 奉責ん。方五やまらひのこころをまきり  
とるまへん。方五まらひのこころをまきり

経緯し。方五とてまなくぬきささるあ  
たよへちき 後後紀。毎 年出ぬ  
たどり 手取 手取

とあらうさぢれりこころをたし  
たぢれ を別とまほし。とまほし。とまほし。とまほし。とまほし。  
とらまきつこころをたし

らまきつこころをたし  
たぢれ を別とまほし。とまほし。とまほし。とまほし。とまほし。  
とらまきつこころをたし









ナシト

○方六山方のあふらきむと川邊のさあ

たにせんみ

○方十二谷せをへ

さしをへよ

たぬ

田井シ。方十たつゆのきこい

たうとの

○方一の

のけりきむんををれり。日任後七年天を

たうみくら

るくめ一のほりてたれ天の下よりけりてい

う成る。方六言いからあまのひつきとま

おつよ上院

たふせ

田原シ。方十六か

たま

スー

たまぐき

○古ト

たごん

○古ト

田原シ。方十ほくきんかく

たみどけ

○古ト

ことよて作のう

たちぶねのうけふみみち

○方二橋の

史記 諺云桃李不言下自成蹊。文選 樹下成蹊。橘ハ

たて

○方十

まごむ たてのひろのき

○和權一名河柳 年品

たゆづら

むきり。方二むらうら

たゆづら

○日三むらうら

目録一玉草

たすも

○方一

たましつ

○方二

たまこまけ

○方十四

むこまけあし

たう

○和辭 多信一名

さつりたうくしやうまう  
君をすまうつてもいのも  
たつづね 鶴之音也。方寸つづ  
ゆのけさあくらりま  
半つゆ 武馬也。  
日 發明傳

古今事類言部五年春川系氏直官登極馳馬乃見良駒中書及牡駒驚走者解  
半解解服馬隨心馳驟合度超度大内五之敷土十八丈焉。六とつとあまりやつを  
こゆる礼のま君もさむまハ老をてぬへ。月礼曰凡馬八尺以上為龍、  
○方五とつとあまりえりつあまりい。あらゆやこつゆきてこもるあ  
たにく

谷躰○方五あまりこのもつあひきさしたまくのさつりたまふみ。式神年祝相八十者  
谷躰林枝液柱。す後芥久、赤雅到注一名蟻蜂説又蝦蟇唐くくしをり人忠之  
了信

たひつ 網釣○方九かつつり網つりほと。和鯛味其冷たりを垂尾  
考 無毒白似御而紅鱗者海御魚赤女 赤鯛

○方七履つをかけのり たびゆきごころも 旅装衣○方三泉河わもせうとつ  
を乃きりなり せうり振りとらもさうぬきあかも たふさ

き 猿鼻○方三ふさきのあれ。史記曰馬相如著猿鼻禪。和袴而無跨謂之禪 強乃乃毛乃  
一云知比依波毛の岸昭云今三尺布作之形如牛鼻者也。方十六わをさうたふさきに毛る

つふれ たまきと 武馬也。方寸をとめらうも乃きうま  
いのい たまきと 一はらうらむ。日五もどさぬき たまき 襦褌也。方十六たまきか  
けさうこうしに。和袴

祿年都心小思被也。史記曰王母在法標之中。西蜀曰龍八寸長八尺用伯夷虎皮而新舊  
併也。その乃むつきしたうひておやあへ。和名もらきく。いふのいふ。いた  
まきと入る。日 和袴。源 存 水君のこをまひきりひとまへ。ちりきりつりさ  
るひてこえとまへ。和名子二つ中ちちこ乃るまきりひひたる。の上まらう  
ろくろきりふとあめのいんとのあまきぬ  
たのね 日 和袴  
たの半海 竹也。史記曰  
たのね 日 和袴  
たの半海 竹也。史記曰  
たのね 日 和袴  
たの半海 竹也。史記曰









たちへきみ 千原之泊 たちひち 塵土

ちりきさ 近隣 ちゆひのた ちゆひのた

ちさし 千代 ちゆひ ちゆひ

ちゆひ ちゆひ ちゆひ ちゆひ

ちゆひ ちゆひ ちゆひ ちゆひ

ちゆひ ちゆひ ちゆひ ちゆひ

ちゆひ ちゆひ ちゆひ ちゆひ

ちゆひ ちゆひ ちゆひ ちゆひ

ちゆひ ちゆひ ちゆひ ちゆひ

ちゆひ ちゆひ ちゆひ ちゆひ

よはり よはり ちどり ちどり ちゆひ ちゆひ ちゆひ ちゆひ

樽乃孺子上終

